一日一題

引き受ける覚悟

AMDA理事　難波　妙

フィリピンで災害が起こるとAMDAが最初に協力を求めるのが「岡山倉敷フィリピーノサークル（OKPC）」。中でも派遣回数が最も多いのが、2009年から今年の春まで代表を務めていたマジョリー大山さん。初代代表のデイジー古城さんと共にOKPCを確固たるボランティア団体にまとめ上げた。

いつも高らかに笑っているマジョリーさんの包容力は大きな魅力である。そんな彼女が率いたOKPCはAMDAからの派遣要請を断ったことがない。「何でも引き受けてみる」とマジョリーさん。

彼女は、さまざまな宗教や民族が混在するフィリピンのミンダナオ島で、両親から深い愛情と信頼を受けて育った。父親はカトリック教徒だが、多感な時期にイスラム教をはじめ多様な宗教の書籍に触れるよう薦めてくれた。混乱もしたが、知らない世界があることを学んだ。

こうした多様性の中で、何でも引き受けてみることが自らの生き方となった。助けが必要な時は「一緒にやろう」と誰彼構わず誘う。声を掛けることはすぐにできると、災害現場でもその人柄は生かされる。

昨年7月には、過激派組織「イスラム国」（IS）関連の武装組織に占拠された故郷・ミンダナオ島の避難所で支援物資の配布に当たった。戒厳令を敷かれ、緊張が走る中での配布作業は時間との闘いだった。「避難していたイスラム教徒のおばあさんをカトリック教徒の自分が抱き寄せることは嫌がられるかと思ったけど、彼女が生きていることに感謝して抱きしめたら、その人ね、何も言わずにずっと私の肩で静かに泣いていたの」と述懐していた。

マジョリーさんは「後悔は嫌い」と言う。人の「痛み」にも共感しながら、覚悟を持って、何があってもいつも笑っていた父のように、笑顔とともにさまざまな難題を引き受けている。

2018・7・3